

農協青年部が旭岳山頂まで米俵担ぎ

水の恵みの源流、大雪山から米どころを“でっかく”アピール

町内農家の後継者が集まっている農協青年部で、今夏米俵を担いで真夏の旭岳山頂まで駆け上がる企画の準備が着々と進んでいます。名付けて「この町に生まれ、この町で生きていく俺達の挑戦と感謝」キヤラバン。担ぎ上げた米は、山頂で山の神に献上し、米どころ農家の意気込みをアピールして「雄叫び」を上げよう」と意気盛ん。

8月22日(土) 午前9時過ぎ、

東川町農協青年部(松家孝志部長、39人)の若者たちが大雪山の恵みの水で育った東川産「ほしのゆめ」6俵(1俵30キログラム)を担いで、大雪山旭岳(標高2千291メートル)の山頂を目指します(当日の天候によって中止する場合があります)。

正午過ぎには山頂を制覇。担ぎ上げた米を山の神に献上して大雪山の恵みに感謝します。

献上米は、山の神に奉納後、いったん山から下ろして1キログラムずつの袋に小分けし、翌23日(日)、旭岳温泉10軒のホテル、旅館を回って、その日滞在している観光客にプレゼントする計画です。

命の源流・大雪山の恵みで育った米のうまさを知ってもらい、大

雪山と東川町のファンになってもらおう、という狙いです。

もちろん山の神に今年の豊作も祈るつもりです。

配布は、「ほしのゆめ」のほか、大雪旭岳源水(500ミリリットルペットボトル2本)、季節野菜の地物トマト、ピーマン、トウモロコシ、サンチュ(葉野菜)も加えて「安心・安全な東川産農産物セット」にし、「おいしい野菜王国」もPRするつもりです。

同青年部には今年、農業後継者が新たに7人も加入してきました。例年にないにぎわいです。

「地元の農業後継者としてなにかできることはないか?」と話が盛り上がり、「町と農業と観光をすべてリンクさせたイベントをつ

くろう」と初の企画実現に足並みがそろいました。

現在19歳から40歳までの男性約30人が担ぎ手に名乗りを上げています。途中交代しながら1人2回程度ずつ米俵を背負う計画です。

今年の青年部プロジェクトは、この米俵担ぎ登山に限っています。

先立つこと約2週間前の9日、青年部が主催して初の「婚活パーティー」も計画しているのです。

6年ぶり開催のパーティーは、旭川市内などの女性に参加を呼びかけています。

昼食後、一緒にパークゴルフを楽しんでもらい、その後サンチュ、しいたけ、トマト、長ネギなど、旬の野菜収穫体験も楽しんでもら



▲米俵担ぎ登山プロジェクトを仕切る松家孝志さん(左)と事務局の農協職員、齋藤洋平さん

おう、というもの。うまい空気と大地と自然を満喫してもらえば、好印象OK! というわけ。こちらの成果も楽しみです。